

次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を推進する懇話会

## 体育・スポーツの振興

浪越一喜  
(帝京大学教育学部)

### 体育・スポーツ振興の拠り所となる 第12次千葉県体育・スポーツ推進計画

- LINK A 「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」
- LINK B 「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり」
- LINK C 「スポーツ環境の整備」
- LINK D 「競技力の向上」
- LINK E 「東京オリンピック・パラリンピックを  
契機としたスポーツの推進」
- LINK F 「スポーツによる地域づくりの推進」

## 提言の概要

1. スポーツ・インテグリティを保つために  
(運動部活動、スポーツ教育)
2. スポーツによる地域づくり  
(総合型地域スポーツクラブ、活動への参画)
3. 人材育成  
(幼児の運動環境：保育者、スポーツ指導者)
4. スポーツ・イベントが残すもの（遺産）  
(ボランティア、障がい者スポーツ)

## ○スポーツとの豊かな関わり

- ①する
- ②みる
- ③ささえる・創る

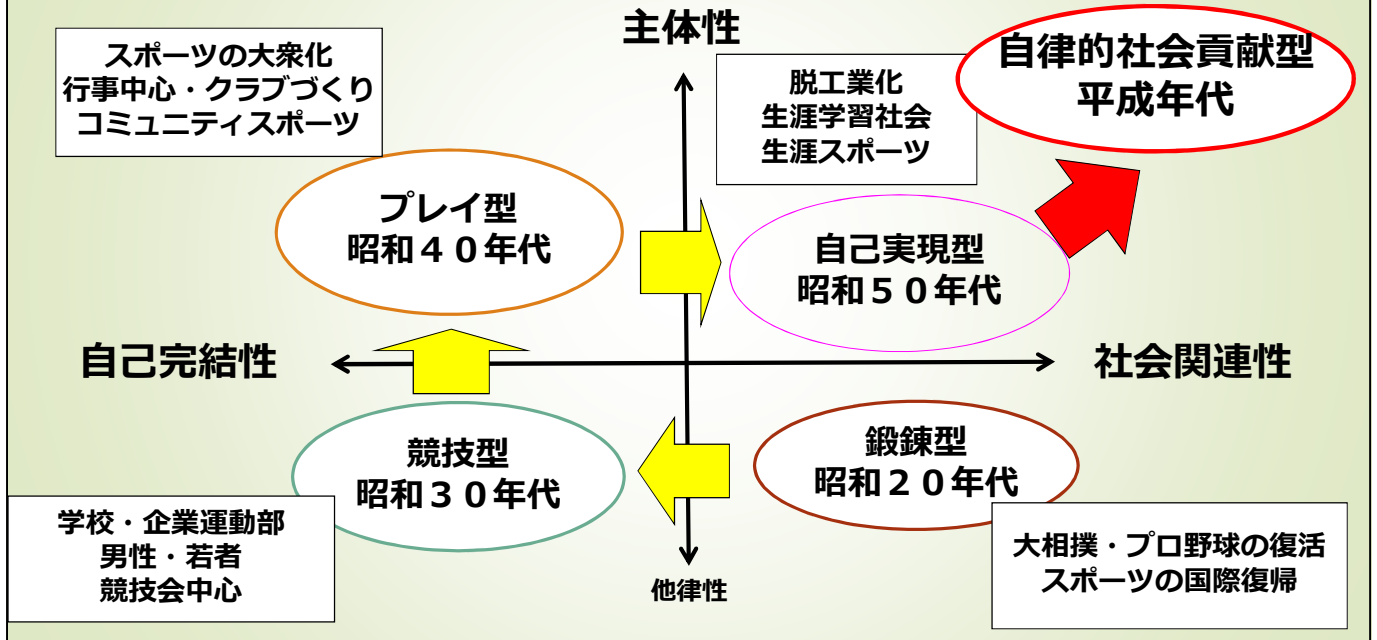
## ○豊かな運動生活の視点

(永田秀隆 『テキスト 体育・スポーツ経営学』 P33 大修館書店)

- ①スポーツ活動の『継続性』
- ②スポーツ活動の『合理性』
- ③スポーツ活動の『組織性』
- ④スポーツ活動の『自律性』

# 人とスポーツの関わりの変化

(柳澤和雄 日本体育・スポーツ経営学会第38回大会 講演資料に加筆)



## 「第3期教育基本計画」にみるスポーツ推進の課題

### II. 教育をめぐる現状と課題

#### 2. 社会の現状や2030年以降の変化等を踏まえ、取り組むべき課題

##### (2) 教育をめぐる状況変化

##### (子供・若者をめぐる課題)

- 幼児生活体験不足等から、基本的な技能等が十分に身に付いていないという課題
 

|         |      |
|---------|------|
| 幼児期運動指針 | 人材育成 |
|---------|------|
- 地域・家庭と連携・協働しつつ、体験活動の機会を確保していく必要性
- 子供の体力については、依然低い水準にある。体力の二極化傾向 (地域コミュニティの弱体化)
- 地域の人々との付き合いが疎遠。高齢者や困難を抱えた親子などが地域で孤立
 

|              |
|--------------|
| 総合型地域スポーツクラブ |
|--------------|

#### IV. 今後の教育政策に関する基本的な方針

1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する
3. 生涯学び、活躍できる環境を整える
4. 誰もが社会の担い手となるため学びのセーフティネットを構築する
5. 教育政策推進のため基盤を整備する

#### 1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する (確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成等)

- ……主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、その課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと等が求められている。これまでの教育の中で育まれてきた「生きる力」や、その中で重視されてきた知・徳・体の育成の現代的な意義を改めて捉え直し、夢と志を持って可能性に挑戦するために必要な力を確実に育んでいくことが重要である。
- 近年、幼児期の教育がその後の学力や運動能力に与える影響や、大人になってからの生活へ影響に関する研究が進展しており、幼稚園や保育所、認定こども園の区分や設置主体違いに関わらず、全ての子供が健やかに成長できるよう、幼児期から質の高い教育を提供することの重要性が高まっている。
- さらに、体力は人間の活動源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっている。このため、子供の頃から各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保、食育の充実を図ることが重要である。

## 2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

### (スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成)

- 平成32(2020)年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会やその後を見据え、技術革新やグローバル化への対応による社会の持続的な発展といった観点からの人材育成に加え、スポーツや文化芸術の発展を担う人材を育てることが重要である。

人材育成(指導者・ボランティア)

- スポーツや文化芸術分野において、優れた才能や個性を見いだし、伸ばしていくためには、子供のうちから質の高い専門家に出会う体験の機会の充実などが求められる。

人材育成

総合型地域スポーツクラブ

## 第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

### 目標(2)豊かな心の育成

子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、個人の価値を尊重し、男女の平等を重んじる態度、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度、前向きに挑戦しやり遂げる力などを養う。

- 伝統や文化等に関する教育の推進・・・武道の振興

- オリンピック・パラリンピック教育の推進

・・・ボランティア精神の涵養や、多様な文化への理解等を図る。

・パラリンピックを契機として、国民の障害者に対する理解の促進を図り、共生社会の実現を目指す。

人材育成(実技/組織指導者・ボランティア)

・障害者を含めた多くの国民の生涯にわたるスポーツ参画の拡大等を図る。

総合型地域スポーツクラブ(運営に参画)

目標（3）健やかな体の育成

○学校や地域における子供のスポーツの機会の充実

・・・地域資源も活用しつつ、放課後や地域におけるスポーツ機会の充実を図る。

目標（6）家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

○家庭の教育力の向上

○地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

目標（9）スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成

○次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築

目標（10）人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

○若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進

目標（13）障害者の生涯学習の推進

○障害者スポーツ、障害者の文化芸術活動の振興等

## スポーツ・インテグリティを守る

（フェアプレイ 行動と精神の醸成）

\* スポーツにおけるインテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）とは、必ずしも明確に定義されているとは言えないが、ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念である。

（第3期教育振興基本計画）

## スポーツ・インテグリティをめぐる課題

1. スポーツ界におけるヘイトスピーチ（人種差別）
2. アスリートの不祥事と選手教育
3. 審判の「可能性としての誤審」と「IT判定システムの導入」
4. 「体罰・暴力」問題と運動部活動、スポーツ指導
5. スポーツ界におけるドーピング
6. スポーツ組織の汚職・不正問題とガバナンス

スポーツ・インテグリティを理解し、高める「機会」をどこに求めるのか？

- ◎ 道徳教育 ◎ 総合的な学習の時間
- ◎ 体育科・保健体育科（教科体育）／運動部活動

## グッドコーチに向けた「7つの提言」

（平成27年3月13日 コーチング推進コンソーシアム）

- 1. 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。**  
コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚したスポーツ指導を実践
- 2. 自らの「人間力」を高めましょう。**  
コーチングが社会的活動であることを常に自覚し、自己をコントロールしながらプレイヤーの成長をサポート
- 3. 常に学び続けましょう。**  
最新の指導内容や指導法の習得に努め、競技横断的な知識・技能や情報を収集し、常に学び続けることが必要
- 4. プレーヤーのことを最優先に考えましょう。**  
人格及びニーズや資質を尊重し、スポーツの価値や目的、公平なコーチングを行うことが必要
- 5. 自立したプレイヤーを育てましょう。**  
自ら考え、自ら工夫する、自立したプレイヤーとして育成
- 6. 社会に開かれたコーチングに努めましょう。**  
プレイヤーを取り巻く様々な関係者と課題を共有
- 7. コーチの社会的信頼を高めましょう。**  
スポーツの価値やインテグリティを高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を継続して育成・輩出

## フェアプレイ

### ◎行動としてのフェアプレイ・・・

ルールを守る、審判や対戦相手を尊敬する、全力を尽くす、勝っても驕らず、負けてもふてくされないなど、行動に表れるフェアプレイのこと。

### ◎フェアプレイ精神（フェアな心〈魂〉）・・・

スポーツの場面に限らず日常生活の中でも、自分の考えや行動について善いことか悪いことかを自分の意志で決められること。自分自身に問いかけたときに、恥ずかしくない判断ができる心〈魂〉のこと。

## 『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』

平成30年3月 スポーツ庁

ー前文からー

我が国のスポーツ振興を支えてきた部活動

部活動の教育的意義

課題



部活動（種目）の存続の危機

ニーズに対応した部活動改革の必要性

ー策定の趣旨等からー

生徒がスポーツを楽しむことで運動習慣の確立等を図り、心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること

主は中学校、高等学校も原則適用



適切な運営のための体制整備

(1) 運動部活動の方針の策定等

都道府県：方針の策定⇒市区町村：方針の策定  
適切な活動に向けて（活動時間・休養日）

学校：活動方針の策定  
年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会日程等）、毎月の活動計画及び活動実績を作成 ⇒HP上に公開

(2) 指導・運営に係る体制の構築

適正数の部活動の設置

部活動指導員の配置  
部活動指導員の研修

休養期間の設定

週に2日以上休養日

効率的練習（平日2時間、休日3時間）

4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備

(1) 生徒のニーズを踏まえた運動部の設置

季節ごとに異なるスポーツを行う活動

レクリエーション志向で行う活動

複数校の生徒が拠点校の運動部活動に参加する（合同部活動）

競技力の向上以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等多様である中で、現在の運動部活動が、女子や障害のある生徒等も含めて生徒の潜在的なスポーツニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、**生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる運動部**を設置する。

## 『安全で充実した運動部活動のためのガイドライン』

平成30年6月 千葉県教育庁教育振興部体育科

◎ 千葉県：「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ庁）に準拠

### 3 運動部活動の在り方に関する方針

#### （2）適切な運営のための体制整備

##### ア 方針の策定

○校長は、「学校の運動部活動に係る活動方針」を策定

○運動部顧問は、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会日程等）並びに毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所、休養日及び大会参加日等）を作成し、校長に提出

○校長は、「学校の運動部活動に係る活動方針」及び各運動部活動の活動計画等を公表

##### イ 指導体制の構築

○学校の設置者は、各学校の実態に応じて、部活動指導員を積極的に任用

○部活動指導員の配置に当たっては、学校教育に関する十分な理解を有する者を基本（科学的指導、安全指導、守秘義務、体罰、服務遵守等の研修実施）

#### （3）効果的な活動の推進

##### ア 適切な指導

○生徒の心身の健康管理や事故防止に万全を尽くすとともに、体罰やハラスメントの根絶の徹底する。

○運動部顧問は、スポーツにおける中央競技団体等の示す運動部活動における指導の手引等を参考にして、**1日2時間程度**の合理的でかつ効率的・効果的な練習が行えるよう努める。

##### イ 体罰の根絶等

#### （4）適切な休養日等の設定

##### ア 適切な活動時間等

###### ●適切な活動時間

長くとも、平日の練習時間は2時間程度。学校の休業日は3時間程度

###### ●休養日の設定

学期中は、平日に1日以上、週末に1日以上の、少なくとも週当たり2日以上の休養日設けることを基準とする。週末に大会等に参加した場合は、他の日に休養日を振り替える。

長期休業中は、学期中の休養日の設定に準じた扱いとするが、生徒が十分な休養を取ることができるよう、まとまった休養期間を設ける。

## 運動部活動とスポーツ・インテグリティ

1. 年間指導計画の作成と公開
2. 指導計画の遵守
3. 指導の質の向上  
(スポーツ医科学に裏付けられた知識と指導法の理解)
4. 暴力(体罰)及びパワーハラスメントの撲滅
5. 差別(学年/レギュラーとイレギュラー等)
6. 児童・生徒のニーズの把握

## 総合型地域スポーツクラブと地域づくり

### 総合型クラブの特徴

- ①多種目 ②多世代・多志向 ③一貫指導  
④活動拠点 ⑤自主運営

◎地域全体でスポーツの推進をサポート

○スポーツ無関心層の掘り起こし

○子供(青少年)/高齢者のスポーツ振興

○スポーツを支える人々の育成支援

○スポーツライフ+クラブライフ

## 総合型地域スポーツクラブの取り組みと課題

○総合型地域スポーツクラブは、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、学校と連携、障害者スポーツなど特色ある多様な取り組みを実施。

|          |                       |       |
|----------|-----------------------|-------|
| 【健康増進】   | 地域住民対象健康づくり事業実施       | 49%   |
|          | 介護予防事業受託              | 8.4%  |
| 【子育て支援】  | 親子スポーツ教室等の開催          | 40.8% |
|          | 学童保育・放課後子ども教室等との連携・協働 | 13.7% |
| 【学校との連携】 | 学校行事への協力              | 28.4% |
|          | 部活動代替種目の実施            | 14.2% |

【障害者スポーツ】障害者受け入れ実績 35.2%

○総合型地域スポーツクラブの課題（人材の確保等）

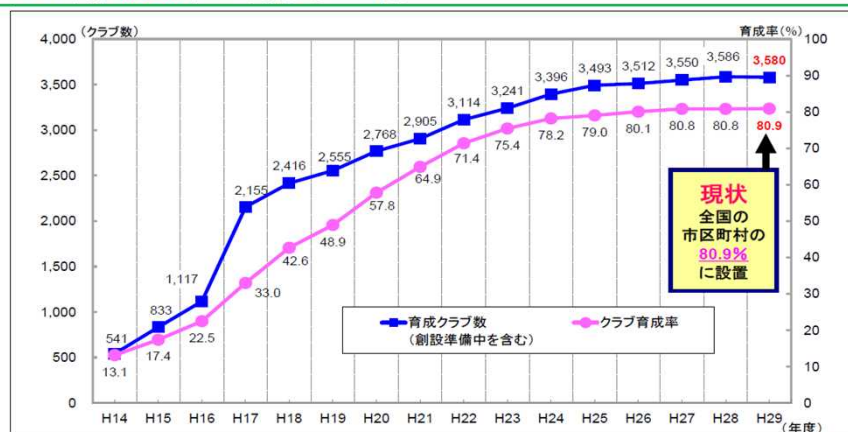
|                        |       |
|------------------------|-------|
| クラブの運営を担う人材の世代交代・後継者確保 | 72.0% |
| 指導者の確保                 | 55.8% |

## 総合型地域スポーツクラブの課題

スポーツ庁 総合型地域スポーツクラブに関する実態調査の結果について（平成30年2月27日）

### 総合型地域スポーツクラブの設置状況 （平成29年7月1日現在）

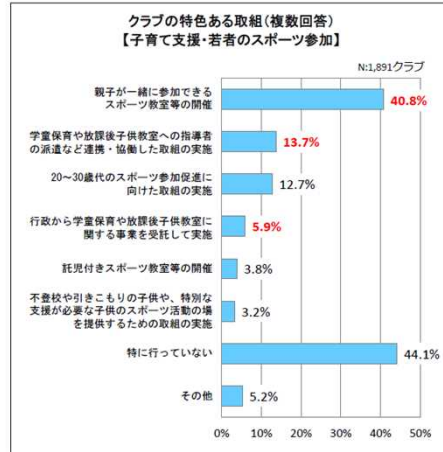
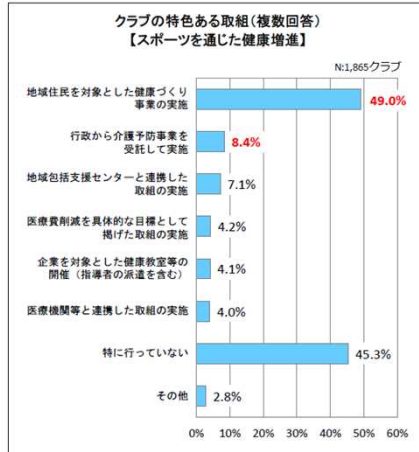
- ✓ 育成クラブ数 H29年度: **3,580 クラブ** (H28年度から6クラブ減少)
- ✓ クラブ育成率(全市区町村に対する総合型地域スポーツクラブが設置されている市町村の割合)  
H29年度: **80.9%** (H28年度から0.1%増)



(文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」結果に基づき集計) ※総合型地域スポーツクラブ数については、創設準備中を含む。 1

## 総合型地域スポーツクラブの特色ある取組①

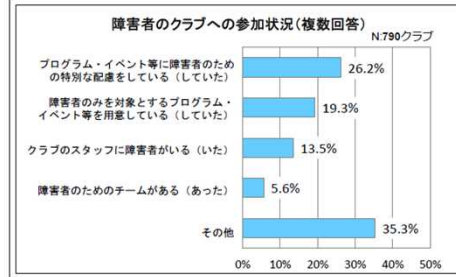
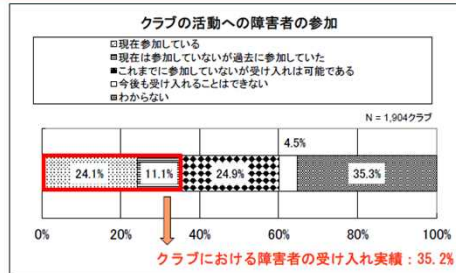
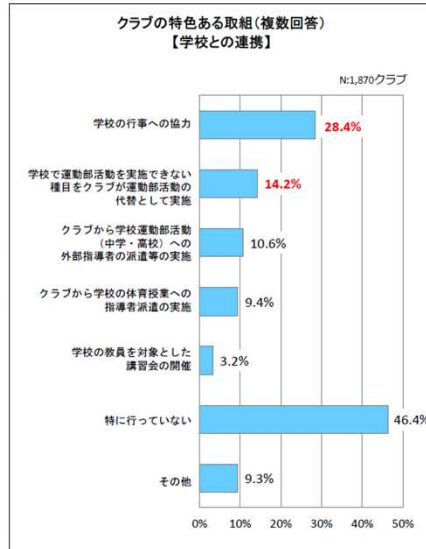
✓ 総合型地域スポーツクラブは、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、学校との連携、障害者スポーツなど特色ある多様な取組を実施。



(出典)スポーツ庁「平成29年度総合型地域スポーツクラブに関する活動状況調査」

4

## 総合型地域スポーツクラブの特色ある取組②

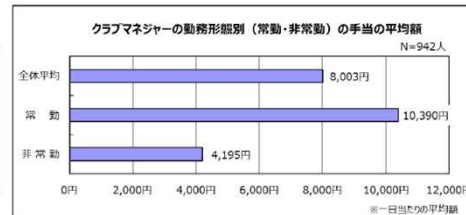
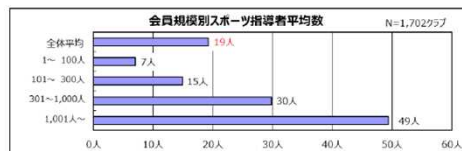
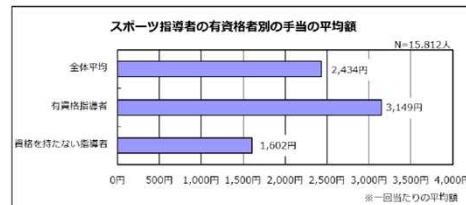
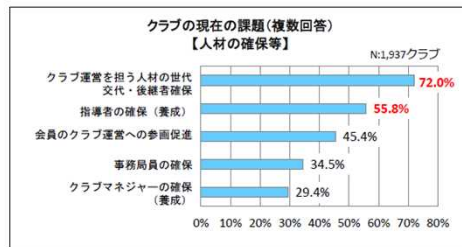


(出典)スポーツ庁「平成29年度総合型地域スポーツクラブに関する活動状況調査」

5

## 総合型地域スポーツクラブの課題（人材の確保等）

- ✓ 「クラブ運営を担う人材の世代交代・後継者確保」が**72.0%**、「指導者の確保（養成）」は**55.8%**のクラブで現在の課題となっている。
- ✓ 指導者は、1クラブに平均19人が所属、そのうち「有資格者」は **48.2%**
- ✓ 指導者手当の平均は**2,434円/回**、クラブマネージャー手当の平均は**8,003円/日**



（出典）スポーツ庁「平成29年度総合型地域スポーツクラブに関する活動状況調査」

9

## 活動の場としての総合型地域スポーツクラブ

☆日本スポーツ協会スポーツ推進方策2018（平成30年4月1日）

◎クラブ事業／エリア事業

（1）スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの在り方

【目標】

地域において、多様なスポーツニーズに対応できる地域スポーツクラブの育成が課題となっていることから、子どものスポーツ権の保障を第一義に捉え、中学校運動部活動の地域への意向を見据えながら、**スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、中学校運動部活動の三者がそれぞれの強みを生かした新たな地域スポーツ体制を検討する等の連携・協働を図る。**

## オリ・パラ開催とその遺産 ボランティア

東京都：『東京2020大会に向けたボランティア戦略』の概要（抜粋）

### 2. 戦略の主な内容

#### (2) 多様な参加者の確保

##### ア 障がい者

- ・募集、研修、配置等、それぞれのプロセスにおける環境整備に取り組む（例：バリアフリー、障がい者用トイレの整備状況等）

##### イ 児童・生徒

- ・都内の小学生・中学生・高校生のボランティア体験
- ・都内に加え、被災地等の中学生・高校生が大会運営を体験できる場についても検討

##### ウ 働く世代・子育て世代

- ・ボランティア休暇の整備・取得促進
- ・託児所の利用等、子育て世代も参加しやすい環境の検討

#### (6) 大会後のレガシー

- ・大会後もボランティアとして活躍できる仕組みを構築するため、関係局や関係機関と連携しながら検討

### ① 健常者から障害者へのスポーツ支援活動

### ② 障害者当事者から障害者へのスポーツ活動支援

（ロンドン大会 リオデジャネイロ大会）

### ③ 障害者もスポーツ支援活動に参画

渡は、ボランティアをめぐる課題を以下のように述べている。

（現代スポーツ評論37（2017）創文企画）

「人数の確保」の問題から「継続する人の増加」へ

\* 経験を重ねて活動している人が少ない

「依頼型」からの脱却

障害者スポーツにおける「共在と一体」（する と ささえる）

## スポーツボランティア育成の課題

「奉仕」「有志」から「新たな発見」「学び」  
(楽しみ体験)を含んだものへ

○東京2020大会ボランティア 大会8万人(ボランティアリーフレットによる)  
都市3万人を募集

○千葉県  
都市 3,000人 千葉会場エリア:1,700人 一宮会場エリア:150人  
成田市内エリア:300人 成田空港:700人 浦安市内エリア:150人

○スポーツボランティアと災害・福祉・教育・文化ボランティアの  
活動領域の往還、融合を図る組織(コーディネーター)の育成

## 様々なスポーツボランティア活動

(二宮雅也「スポーツボランティア読本」悠光堂(2017)を参考)

### ○トップスポーツとボランティア

例)ZOZOマリンスタジアム(CLM)・・・

挨拶(雰囲気づくり)／周辺の清掃

### ○スポーツイベントとスポーツボランティア

・専門ボランティア ・一般ボランティア

### ○総合型地域スポーツクラブとスポーツボランティア

・クラブ自体を支えるボランティア  
・クラブのプログラムとしたスポーツボランティア

### ○スポーツ実践を支えるスポーツボランティア



# 県民の豊かなスポーツライフの創造

健全なスポーツ文化の振興（発展）  
（スポーツ・インテグリティが維持されている状況）

する

みる

ささえる

継続性

継続性

継続性

継続性

東京2020（オリ・パラ）

総合型地域スポーツクラブ

スポーツボランティア

人材育成

家庭

保育・学校教育

運動部活動

保育者・教員

指導者

活動計画